

1 題材名 「生活に役立つものをつくろう」（箸袋の製作）

2 指導観

○ 循環が社会を作り出していくためには、いろいろなものの生産から消費、処分のサイクルを見直した社会システムの構築が必要である。その第一歩として、個人が資源の抑制し、環境への負荷を減らすことは重要である。このため中学生の段階から環境に関する知識を身に付けさせ、生活の中で実践する態度や能力を育てることが必要である。

本題材は、自分の生活を見直し、資源の有効活用のためにできることを考えさせ、課題をもって計画を立て実践しようとする態度を養うことをねらいとしている。ここでは「生活に役立つものをつくろう」という題材で、特に布製品を取り扱い継続して使っていけるものを考えさせる。学習内容としては、環境や資源を考えた生活、基本的な縫い方の総復習、オリジナル箸袋製作計画を立てる、オリジナル箸袋の製作、製作のまとめと課題などがある。また、技術科との連携により、実際に自分にあつた長さのオリジナル箸を製作している。このような学習を通して、生活を見直して環境に配慮した消費生活を送ることができることを目指している。

このことは自分にも環境を守る責任があることを自覚し、日々の生活の中でできることを実践しようという態度を育て、生活を豊かにしていくうえでも大変意義がある。

○ 生徒はこれまでに、わたしたちの消費と環境を学習し、消費者としての意識をもち、さらに「かしこい消費者になろう」では、環境に配慮した生活の学習を深めている。

事前調査を行なったところ、%の生徒は「家庭科の学習は好きである」と回答している。また、「生活をよくするために、家庭科の学習は大切だ」と回答している生徒は、%である。「観察したり、実習したりすることが好きである」と回答した生徒は%で、「裁縫をすることが好きである」と回答した生徒は%で、裁縫が好きな理由として、完成したときの達成感が味わえるや、縫うという細かい作業が好き、自分が考えたものが形になるのがうれしいなどが挙げられた。裁縫が好きでない理由は、不器用だから、縫い方がわからない、針が指に刺さるのがいや、面倒くさいなどが挙げられた。また、「学校で作った物を家で使っている」の回答は、%である。活用しない理由については、使う機会がない、みんな一緒に恥ずかしい、どこにあるかわからない。などの結果がでた。このようなことから、生活をよくするために、家庭科の授業で取り組ませた作品については、作業をしたり実習をしたりすることは楽しくできているが、その後の作品を生活の中で活用している生徒はあまり多くないことが実態として考えられる。

○ 指導にあたっては、各自の生活を振り返り、「生活に役立つものをつくろう」とう視点から、具体的な課題を見出して、問題解決のための計画を立て、自分の思いを形にできる製作活動を行う。具体的には箸袋の製作を通し、今後の生活で活用し、実習で身につけたことを活かせるような態度を育てて行きたい。

そこでまず、環境や資源を考えた生活の振り返りを行い、チェックシートを活用し実態をとらえさせる。ここでは限りある資源の有用活用、循環型社会、自分の身の回りの課題発見などといった環境や資源に配慮した生活をするための自分の課題を見つけさせる。また、お箸の歴史や使い捨ての割り箸の現状や使い方、自分に合う箸について触れることで、身近な課題として捉えさせる。次に技術科との連携により、実際に自分にあつた長さのオリジナル箸を製作することを伝え、箸袋製作への意識付けとする。箸袋の製作については、自分の思いを形にできるように箸袋の形状、布の材質、製作手順などを調べて考えさせた。布の材質では、博多織についても触れ、福岡の伝統文化についても学ばせた。その後自分の作りたい箸袋の発表会を行い、仲間との意見交換を行ない、最終調整を行なうことで、製作活動へつなげて行く。また、このような学習を通して、生活を見直して環境に配慮した消費生活を送ることができることも考えさせていく。

3 目 標

- 自分の生活を見直し、資源の有効活用のためにできることを考えさせ、箸袋の製作に意欲をもつ。
- 自分の生活を振り返り、環境に配慮した生活のための提案ができる。
- 調べ学習をする中で、自分の思いを形にするための方法を工夫することができる。
- 小・中学校での被服製作の基礎的な技能を活用し、箸袋を美しく仕上げる。
- 箸袋の形状やゆとりについて理解することができる。

4 指導計画（17時間）わたしたちのよりよい生活

関：関心・意欲・態度 工：工夫創造 技：生活の技能 知：知識・理解

段階	配時	学習活動・内容	手だてと 研究に関する手だて	評価規準<評価方法>
気付く	3	1 環境に配慮した生活の課題をみつける。 (1) 循環型社会について考えよう。 ・限りある資源の有効活用 ・循環型社会と3R (2) 自分の課題をみつけよう。 ・箸と環境 ・箸にかかわる環境の改善	○ 環境や資源を考えた生活の振り返りを行い、チェックシートやプリントを活用し実態をとらえさせる。 ○ ごみの分別体験を想起させ、割り箸に関する資料と学習プリントを用意する。 ○ 自分に合う箸のサイズを知るため、各班で活動させる。また、実際に技術の授業で箸作りをするを伝え喚起する。	関：環境に影響を与えている消費生活の事例を意欲的に考えようとしている。 <プリント分析> 知：生活の仕方と環境や資源の問題とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付ける。 <プリント分析> 工：生活を見直し、ごみを少なくする暮らし方の工夫を考える。 <プリント分析> 知：割り箸のごみや箸の歴史を理解する。 <プリント分析>
見通す	9	2 基本的な縫い方の総復習をする。 (1) 巾着袋の製作 ・縫いしろ・ゆとり ・中表 ・手縫いとミシン縫いの基礎 (2) 布の種類と布地にあった取り扱い ・箸袋に適した布地 ・博多織 3 オリジナル箸袋の製作計画をたてよう。 (1) 試しの活動により、製作計画をたてる。 ・箸袋の形 ・中表の縫い方 ・製作の手順 (2) 製作計画書の交流会をする。 ・デザイン ・縫い方	○ 基礎縫いを確認するため、各自で巾着袋を製作させる。 ○ 視聴覚教材を活用し、基礎縫いを定着させる。 ○ 布についての学習の中で、博多織について紹介し、地域の伝統文化を意識させることで、物を大切に使う態度を育てる。 ○ いくつかの箸袋の実物見本 や資料を提示し、自分に合った形を検討させる。 ○ 紙を使用し、箸袋の試作品を作らせる ことで、縫い代やゆとりを考えさせる。 ○ 布を用いて外表と中表の二つの作業を各班で行わせることで、作業効率や仕上がりの美しさなどを考えさせる。 ○ 作業の見通しをもつために、 製作計画書を書かせる 。また、いくつかの見本を見せることで大きさなどをイメージさせる。 ○ 全体での発表会をすることで、自分の作品の検討を行なわせる。	技：巾着袋の製作を通し、基礎縫いができる。 <作品分析, 活動チェック> 関：博多織に関心をもち、箸袋の製作意欲を高めている。 <プリント分析> 工技：実物見本や資料を活用して解決方法を導き出すことができる。 <プリント, 作品分析> 知：作業効率や仕上がりの美しさなどについて理解することができる。 <プリント分析> 工：作業の見通しをもち、目的に応じた製作計画が立てることができる。 <製作計画書分析> 工：友達の発表を聞き、自分の作品の参考にする。 <様相チェック, プリント分析>

表現する	4	4 オリジナル箸袋の製作 ・布の裁断 ・縫製 ・装飾	○ 無駄なく作業ができるように、 グループ学習 を行なう。 ○ 実物見本, 段階見本 を準備し, 参考にさせる。 ○ 作業しやすいように, ミシンコーナーやアイロンコーナーなどを設定する。	工技: 製作計画に従って, グループで円滑に作業を進めることができる。 ＜活動チェック＞
活用する	1 課外	5 製作のまとめと課題 (1) オリジナル箸袋の作品発表会 (2) 活用レポート作成	○ 友達の作品のよさに気づき, 今後の参考にさせるため, 作品発表会を行う。 ○ 作品の改善や, これからの生活に生かす視点でレポートを記入させる。	関: 友達の作品のよさに気づき, 今後の作品の参考にしようとする。 ＜プリント分析＞ 関: 生活の中で作品を活用しようとする。 ＜レポート分析＞ 工: 活用する中で, 作品の改善点に気付くことができる。 ＜レポート分析＞

5 本 時 平成 22 年 月 日 ()

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は、自分に合った箸の長さや箸袋の形状について調べたり、紙を使用し自分が作りたい箸袋の試作品を作ったりしている。さらに、計画書を作成し、効率よく作業ができるような製作手順なども考えている。

そこで本時では、これまで作成してきた計画書の発表会を行なうことで、自分の作品の作業手順の検討を行い、仲間の意見を聞くことで作品の調整を行なうほか、今後の作業の励みとし、意欲の向上に努めることをねらいとしている。そのためにまず、箸袋のサンプルを見せ、製作に必要な時間やゆとりやオリジナルの部分の紹介を行いマイ箸袋製作の意欲づけとし、本時のめあてを確認する。次に発表の手順を確認し、順番に発表を行なわせる。ここでは、発表会を視聴覚機器を使って行い、製作計画書の発表をさせる。また、ワークシートを活用し、友達の良い点や参考にしたいところなどを記入させる。さらに、各班になり生徒どうして話し合いを行い、友達の意見を取り入れたり、修正を行ったりと今後の製作が円滑に進むように考えをまとめさせる。最後に本時のまとめを行い次時の予告を知らせる。

(2) 主眼

○箸袋の計画書を発表し、みんなの計画書に興味をもつことができる。

○友達の発表を聞くことで、今後の製作活動の参考につなげるようにすることができる。

(3) 準備

- ①箸袋の見本 ②製作計画書 ③発表の手順カード ④プリント ⑤プロジェクター
⑥スクリーン ⑦ワークシート ⑧博多織

(4) 過程

学 習 活 動・内 容	準 備	留 意 点 (◇評価)	形 態	配 時
1 前時の学習内容を振り返り、本時のめあてを確認する。 友達の意見を参考にして製作計画書の見直しをよう。	①	○ いくつかの箸袋の見本を見せ今から自分たちが作ろうとしている箸袋の確認をさせ、前時までの学習の振り返りをさせる。	一斉	5
2 各班になり、計画書を用いた交流を行ない、一番分かりやすい人を選ぶ。 ・目的・手順・展開図・工夫点	② ③	○ いろいろな計画書がある中で、工夫や手順などが分かりやすくまとめられたものを選ぶように注意させる。	各班 生活 班	5

<p>3 発表の手順を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的・手順・縫う方法 ・作り方・工夫点 		<p>○ 手順カードに従い発表させることで、聞きやすく、まとめやすくさせる。</p>	一斉	5
<p>4 各班の代表者の発表を聞き、プリントに参考にしたい点や良い点などを書く。また、そのほかに工夫点などがある人は発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表の参考にしたい点やよい点、作品に関する気づき ・美しく仕上げるための縫い方 ・布地に適した縫い方 (博多織の特徴) 	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	<p>○ 友達の発表や計画書の参考にしたい点や良い点を記入させ、振り返りの時に活用させる。</p> <p>◇関：友達の発表に興味をもち、聞くことができたか。 <様相チェック></p> <p>○ 布の材質によって、中表の状態で縫うことが難しいものもあることや、きれいに仕上げるための縫い方や縫い代の確認をさせる。</p>	個人	15
<p>5 みんなの発表を振り返り、形状ごとの班になり、ワークシートをまとめ発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品に取り入れたいこととその理由 <p>(縫い方、ゆとり、素材、装飾など)</p>		<p>○ 形状ごとの班にさせ、自分の作品に取り入れたいことなどをまとめさせる。また、意見交換することでお互を補い合わせる。</p> <p>◇工：友達の発表を聞き、自分の作品の参考にしようとすることができたか。</p> <p><様相チェック、プリント分析></p>	各班	15
<p>6 本時のまとめと次時の予告を聞く。</p>		<p>○ 友達の発表を聞くことで、自分の製作計画書を見直すことができ、お互いに補い合い、高めることができることを確認する。</p>	一斉	5